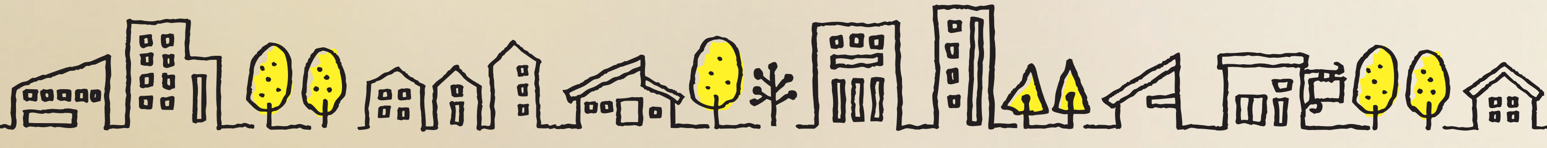
世田谷
市民大学

2026年度前期募集案内

申込締切日　2月16日（月）必着

※追加募集を3月13日（金）まで行う場合があります。



「世田谷市民大学」は、18 歳以上の区民が誰でも参加できる区民のための学習の場です。

政治・社会・経済・人間に関連した幅広いテーマを取り上げ、地域社会に密着した問題や、市民自治の担い手に必要な現代社会の諸問題に対する確かなものの見方を培うよう、講師陣が丁寧に系統的な講義・ゼミを行います。

世田谷市民大学　案内図

交通ご案内

電 車

東急田園都市線「池尻大橋駅」
南口より徒歩約 8 分

バ ス

①番の「池尻」バス停より徒歩約 7 分
②番の「三宿」バス停より徒歩約 7 分
（渋谷駅〜上町駅・用賀駅・祖師ヶ谷大蔵駅・成城学園前駅西口・弦巻営業所・田園調布駅・等々力駅　他）
③番の「三宿」バス停より徒歩約 7 分
（渋谷駅〜野沢龍雲寺（循環）、
渋谷駅〜東京医療センター　他）

※世田谷市民大学受講生用の駐車場はありません。
（1 階にコインパーキングがあります）
※「せたがや がやがや館」は、世田谷区立健康増進・交流施設です。市民大学は、施設内の会議室を一部借用して開講しています。

世田谷区 市民大学・生涯大学事務局

〒 154-0001
世田谷区池尻2- 3- 11　せたがや がやがや館4階
TEL 03- 3412- 3071　FAX 03- 3412- 3075
（8：30〜17：00　土・日曜日、祝日休）

世田谷区 生活文化政策部 市民活動推進課

〒 156-0043
世田谷区松原6- 3- 5　梅丘分庁舎
TEL 03- 6304- 3176　　FAX 03- 6304- 3597
（8：30〜17：00　土・日曜日、祝日休）

目　次

学習の方式 ………… 1
前期プログラム ………… 2・3
昼間講座の概要 ………… 4・5
ゼミの概要 ………… 6
土曜講座の概要、開講式・記念講演 ………… 7
後期講座予告 ………… 8
今後の予定講座、受講生企画会議 ………… 9
運営委員会 / 評議会 ………… 10
申込みのご案内 ………… 11
申込控 ………… 12
申込書 ………… （裏表紙）

学習の方式

世田谷市民大学は、月曜日に「政治」・「社会」、金曜日に「経済」・「人間」のコースがあり、それぞれ「ゼミ」と「昼間講座（前期・後期）」で構成されています。

その他、土曜講座（前期・後期）、世田谷市民サマーフォーラム、公開講座などもあります。これらの中から希望の講座を選択し、学習することができます。

この募集案内では、以下の前期講座について申込みを受け付けます。

講座の詳細は P2 ～ 7 を、申込み方法等は P11 をご覧ください。

募集講座（前期）

講座名	コース	定員	回数	内容・受講上の注意
ゼミ（通年）	政治 社会 経済 人間	各20名	24回	講師の指導のもと、発表・討論を行うなど、自主的に学習を進めます。 ※同日、同時間帯の昼間講座との重複受講不可。 ※受講料は半期ごとに納入いただきます。 **詳細：P2、3、6**
昼間講座	政治 社会 経済 人間	各80名	12回	講師がテーマに沿って講義形式で行います。 ※講座は希望するコース・時間割の選択制です。（複数受講可） ※同日、同時間帯のゼミとの重複受講不可。 **詳細：P2、3、4、5**
土曜講座		各80名	6回	土曜日に講義形式で行います。 **詳細：P3、7**

その他の講座紹介（別途募集を行います）

講座名	内容
世田谷市民サマーフォーラム	7月～8月に行う短期集中型講座で、統一テーマのもと複数回行います。
公開講座	1月～2月にかけて行う無料の特別講座です。

2026年度　世田谷市民大学　前期プログラム

※掲載をしている講師の肩書は2025年12月1日現在のものです。

曜日	日　程	区分	時間割	講座タイトル	講　師
月曜日	**4月** 6・13・20・27日 **5月** 11・18・25日 **6月** 1・8・15・22・29日 （全12回）	昼間講座	政治1時限	日本思想史と仏教	島田　英明（東京都立大学教授）
			政治2時限	民主体制と民主政治を考える	空井　護（成蹊大学教授）
		ゼミ	政治（午後）	日本の近代をふりかえる　※1	苅部　直（東京大学教授）
		昼間講座	社会3時限	メディア･コミュニケーションと対話～分断の時代に抗うためには?	田中　瑛（実践女子大学専任講師）
			社会4時限	国際的な人の移動とエスニック社会の変化	水上　徹男（立教大学特別専任教授）
		ゼミ	社会（午前）	男性学を読む･考える　※1	辻　泉（中央大学教授）

曜日	日　程	区分	時間割	講座タイトル	講　師
金曜日	**4月** 10・17・24日 **5月** 1・8・15・22・29日 **6月** 5・12・19・26日 （全12回）	昼間講座	経済1時限	人類は貨幣をどう用いてきたのか～貨幣再考	林　康史（立正大学教授）
			経済2時限	日本経済の景気変動と長期停滞	脇田　成（東京都立大学教授） 前田　裕之（学習院大学客員研究員）
		ゼミ	経済（午後）	観光の社会経済史　※1	髙嶋　修一（青山学院大学教授）
		昼間講座	人間3時限	大学･高等教育論	原　圭寛（昭和音楽大学専任講師）
			人間4時限	制作者のまなざしで読み解く映画	大木　一史（映画監督）
		ゼミ	人間（午前）	学術書から読み解く日本の教育問題　※1	山梨　あや（慶應義塾大学教授）

曜日	日　程	区分	時間割	講座タイトル	講　師
土曜日	**5月** 9・16・23・30日 **6月** 6・13日 （全 6 回）	**土曜講座**	土曜講座 2時限	日本経済の課題と未来	宮本　弘曉 （一橋大学教授）
			土曜講座 4時限	国際政治は可能か　※2	遠藤　乾 （東京大学教授）

【講 義 時 間】

昼間講座 土曜講座	1時限	9時20分～10時40分
	2時限	11時00分～12時20分
	3時限	13時10分～14時30分
	4時限	14時50分～16時10分
ゼミ	午前	10時20分～12時20分
	午後	13時30分～15時30分

※1
ゼミは前期・後期の通年講座です。後期のゼミ日程は以下の予定です。
【月曜日】9 月 7 日～ 12 月 14 日（祝日除く）
【金曜日】9 月 11 日～ 11 月 27 日

※2
土曜講座4時限「国際政治は可能か」の 5 月 9 日（土）の講義は休講の予定です。
6 月 20 日（土）の同時刻に補講を予定しています。

上記講座以外も、都合により講義日に変更が生じる場合は、最終回の翌週以降、同曜日、同時間に補講を行うことを基本とします。

政治コース

1時限 日本思想史と仏教
（島田 英明）

この国の思想や文化に大きな影響を与えた仏教を中心に、古代・中世の日本思想史を振り返ります。政治講座に属しますが、学問分野としては「日本政治思想史」に関する講義であり、現時点で活動を続けている宗教団体や関連政党を扱うわけではありません。これまで近世・近代に関心を集中させてきた日本政治思想史学が、眼を古代・中世に向けたとき、いったい何が見えてくるのか。そのあらましを紹介します。

第1回　はじめに：「日本的なもの」の語り方
第2回　仏教の思想① 輪廻からの脱却
第3回　仏教の思想② 慈悲と智恵
第4回　仏教の思想③ サンガと国家
第5回　神仏習合と古代国家の政治構造
第6回　最澄
第7回　空海
第8回　浄土思想① 法然と親鸞
第9回　浄土思想② 政治思想としての真俗二諦論
第10回　禅① 栄西と道元
第11回　禅② 北条政権と宋代の学藝
第12回　おわりに：「きりしたん」との邂逅

2時限 民主体制と民主政治を考える
（空井 護）

20世紀後半から今日までを「現代」とすれば、「現代」以前の政治には認められず、「現代」の政治において初めてその存在が確認されるという点で特殊「現代」的な政治現象の一つとして、民主政治の展開が挙げられます。世界に200弱ある国レヴェルの政府（＝国家）をめぐって目下展開する政治を民主政治と非民主政治とに分けると、民主政治は明らかな少数派であり、日増しに劣勢が濃くなりつつあるとはいえ、その存在はいまだ確かに認められます。これは、政治といえば例外なく非民主政治であった「現代」以前とは決定的に異なる、「現代」に特有・固有の政治状況です。

この講義では、こうした意味で「現代」的で「ナウい」政治である民主政治を、その展開を可能にする民主体制にまで遡って原理的に考えてみたいと思います。

第1回　はじめに ― 問題の所在
第2回　政府と政府的共同体
第3回　政策・政治・政治体制
第4回　古典デモクラシー
第5回　現代デモクラシー（1）
第6回　現代デモクラシー（2）
第7回　リベラル・デモクラシーについて
第8回　民主体制の今日的状況
第9回　民主化
第10回　民主体制の本質的不安定性
第11回　デモクラティズムについて
第12回　おわりに

社会コース

3時限 メディア・コミュニケーションと対話 ～分断の時代に抗うためには？
（田中 瑛）

ウェブ空間上での誹謗中傷から伝統的な政治にいたるまで、対立や不信感、そして「分断」は21世紀における重要なテーマの一つになっています。本講義では、現代のメディアをめぐる理論や例を手掛かりとして、こうした分断を乗り越えるために必要な視点は何かを一緒に考えていきます。

第1回　イントロダクション ― 対話が失われた時代のメディア
第2回　メディア・コミュニケーションをめぐる現状
第3回　メディアと社会① ― 社会的な常識の構築をめぐる力
第4回　メディアと社会② ― メディア・リテラシーを再考する
第5回　メディアと社会③ ― ポスト真実と世論
第6回　メディアと文化① ― 欲望を掻き立てるメカニズム
第7回　メディアと文化② ― 多様化するつながりと場所
第8回　メディアと文化③ ― ファンダムと民主主義の接点
第9回　デジタルメディア① ― 加速する社会と「人間らしさ」
第10回　デジタルメディア② ― プラットフォームの寡占と分有
第11回　デジタルメディア③ ― 対話の場をデザインする試み
第12回　メディアを軸に民主主義と資本主義を問い直すには？

4時限 国際的な人の移動とエスニック社会の変化
（水上 徹男）

国際的な人の移動に着目し、その進展を促す要因や、国境を越えて移動する人びとが新たな社会へ適応していく過程に関する調査研究および分析方法を紹介する。都市社会に関連する移民研究の理論や概念を取り上げるとともに、実証的事例についても検討する。具体的には、労働力の国際移動、大都市におけるエスニック・コミュニティの形成と変容、多文化主義をめぐる取り組み、さらに1990年代以降に注目されてきたトランスナショナルな移住者など、いくつかのテーマを設定して授業を進める予定である。

先進工業国の大都市においては、身体的特徴や言語・文化・宗教などを異にする移住者をエスニック集団として受け入れることが、重要な政策課題となっている。さらに、今日におけるエスニック人口の増加と多様化は、ホスト社会の制度的アプローチにとどまらず、価値基準を含む生活文化の変容にも影響を及ぼしている。都市移民に関する研究は、グローバル都市論に代表されるマクロな分析枠組みから、特定の移住者集団の適応過程に焦点を当てたミクロな研究領域まで、多層的に展開されている。移住に関連した事例を通して，社会学的視点やその意義を学ぶことを目標としたい。

昼間講座の概要 金曜日

経済コース

1時限 人類は貨幣をどう用いてきたのか～貨幣再考 （林 康史）

貨幣は信用の上に成り立っています。私たちは貨幣の何を信用しているのでしょうか。貨幣は、その誕生からが謎で、機能等、基本的な事柄でもわかっていないことも多く、また、最近も電子決済や暗号通貨、企業ポイント、レスキャッシュ化等々、私たちの貨幣の概念は変化し続けています。貨幣の何たるかは大いに好奇心を刺激してくれます。

時間と空間を越えて、民族貨幣をはじめ、様々な貨幣と貨幣をめぐる現象を通して、貨幣を具体的にとらえたいと考えています。経済学や法学ばかりでなく、文化人類学等の考え方も援用しつつ、外国為替ディーラー等の私の職務経験から得られた私なりの知見、再発見も交えながら、貨幣とそのシステムを考察します。皆さんといっしょに貨幣を楽しく読み解くことができればと考えています。

第1回　様々な貨幣①：石貨、珠貨、西郷札、軍票
第2回　②：地域通貨、企業（炭鉱）札、無貨幣
第3回　貨幣の分類、機能と役割、貨幣と制度の信用
第4回　法貨と強制通用力
第5回　信用とは～信用貨幣の概念、狭義の信用貨幣
第6回　江戸の三貨（幕府の金・銀・銭）制度、藩札
第7回　藩札～発生、目的、位置づけ、しくみ、終焉
第8回　藩札の経済効果、藩札焼き捨ての目的、意義
第9回　藩政改革と藩札制度
第10回　地域通貨とその源流 ゲゼル、フィッシャー
第11回　レスキャッシュ化、電子マネー、暗号通貨
第12回　まとめ：貨幣～役割、その信用

2時限 日本経済の景気変動と長期停滞 （脇田 成、前田 裕之）

日本経済はどうなってしまったのでしょうか。どうなるのでしょうか。本講義では前半を経済学者である脇田、後半を元新聞記者である前田がリレー方式で日本経済の謎を探求します。まず前半では「失われた30年」を三度のショックと二つのレジームに分割し、それらの時期に応じて経済政策を論評します。さらに基礎的な経済理論に基づき、日本経済の故障箇所を「診断」し、これまでの処方箋の問題点を考えたいと思います。

後半では景気変動について考えてゆきます。政府は「景気は回復している」と判断しているのに、多くの国民は「景気は悪い」と感じています。どうして両者の認識は、ずれてしまうのでしょうか。その原因を解明し、「豊かさを実感できる経済」への道を探ります。

第1回　日本経済の失われた30年
第2回　小泉構造改革の光と影
第3回　リーマンショックと金融危機
第4回　アベノミクスのどこが問題か
第5回　コロナ禍後のリバウンドに失敗
第6回　金融とメディア凋落の30年
第7回　迫り来る人口減少と技術変容
第8回　そもそも景気とは何か
第9回　政府の景気判断の基本
第10回　1%成長時代の生活実感
第11回　政府と国民を動かす「経済学の思考法」
第12回　ささやかな提案～「経済学」に支配されないために

人間コース

3時限 大学・高等教育論 （原 圭寛）

少子化と社会の変化に伴い、大学をはじめとする各高等教育機関はその在り方について様々な議論が噴出しています。しかしこうした議論のほとんどは、「そもそも大学・高等教育は何のためにできたのか」「これが社会の変化に伴ってどのように変わり、また変化せず残ってきたものは何なのか」といった歴史的・本質的な議論がされることがほとんどなく、単に「今の社会に何が必要か」という観点から、本来的に実装が難しい機能を押し付けるようなものとなっていることが多々あります。

本講義ではこのような現状に対し、第1回では受講者が関心を有する大学・高等教育に関する問題意識をお伺いし、共有します。そのうえで第2回～第4回では中世・近代・現代のそれぞれの大学・高等教育の歴史を概観し、議論の基盤の構築を目指します。そして第5回以降で受講者の興味・関心に応じた昨今の大学・高等教育に関する諸問題の各論を扱う予定です。

なお、担当者はアメリカ高等教育史が専門であるため、各論においての事例紹介は日米の比較が中心となりますが、必要に応じてヨーロッパ諸国の事例も可能な限り紹介していくよう努めます。

4時限 制作者のまなざしで読み解く映画 （大木 一史）

本講座では、「映画はどのようにして生まれていくのか」を、制作者の視点から多角的に考察します。企画、シナリオ作成、撮影、ポストプロダクション（編集、音楽、効果音）といった各制作段階を軸に、その都度様々な映画作品を取り上げながら、映画表現の成り立ちを探っていきます。たとえば企画段階では作品の着想や主題設定を、シナリオ創作の段階ではストーリー構成や登場人物の造形、視点の持つ意味合い、台詞の機能などを具体的に分析し、古今東西の名作や話題作を題材に、制作者の意図がどのように画面に結実し、映像表現として具現化されているのかを読み解いていきます。

さらに、現代を代表する表現文化の一つである映画というジャンルの特性をより深く理解するために、テレビドラマや演劇、アニメといった他の表現媒体との制作過程における相違点を比較し、表現形式の違いが作品世界にどのような差異を生み出すのかにも注目します。

制作の裏側を知ることは、映画をより深く味わうことにつながります。本講座では、観ることと創ることの両側から映画を見つめ直し、映画文化への理解と関心を深めるとともに、自らの批評的な視点をより豊かに育むことを目指します。

なお、映画やテレビドラマ、演劇、アニメといった作品を取り上げる際は、DVDを使用して、その作品の抜粋映像を教室において上映しながら、講義を進める予定でおります。

ゼミの概要　月曜日

政治ゼミ

日本の近代をふりかえる

（苅部 直）

政治史の名著、岡義武『明治政治史』上下（岩波文庫）を皮切りに、近代・現代日本の政治史・外交史・政治思想史に関する文献を会読し、さまざまな問題について議論しようと思います。その後、何を読むかは参加される方々のご意向を見ながら決めていきます。毎回、その日にとりあげるテクストに関して一人の方に 30 分ほどご報告いただき、その後の時間は参加者による質疑応答・討論にあてます。テクストについてはコピーを配布する予定ですが、それほど高価ではないので、各自で購入されると便利です。

社会ゼミ

男性学を読む・考える

（辻 泉）

男性問題の時代、という言い方がなされてから、随分と時間が経ちます。ですが、今なお、というよりも、さらにもまして、今日の日本社会では、男性問題が深刻化しています（中高年男性の自殺、若年の弱者男性問題など）。

本ゼミでは、社会学・ジェンダー論の視点から、こうした男性問題について考察していきます。

伊藤公雄著『＜男らしさ＞のゆくえ【増補版】』（2025 年、新曜社）や、宮台真司・辻泉・岡井崇之『「男らしさ」の快楽』（2008 年、勁草書房）などの文献購読をはじめとして、さらに個別の問題に肉薄した、あるいは応用的な、文献の購読に進んだり、受講生の方の個別課題レポート執筆に向けての発表やディスカッションを行ったりする予定です。

18 歳以上で世田谷区内在住・在勤・在学の方であれば、性別年齢は問いませんので、活発な参加をお待ちしております。

ゼミの概要　金曜日

経済ゼミ

観光の社会経済史

（髙嶋 修一）

2024 年度のゼミに引き続き、近現代の観光（ツーリズム）に関係する文献を読み、社会経済史的な論点を探っていきます。論点はもちろん狭義の経済に限られるわけではありませんので、受講者は広く政治･社会･文化といったことにも関心をもって活発に議論に参加することが期待されます。楽しく気楽に議論を始めて、やがて深淵な問いが見えてくればと願っています。以前参加したことのある方も、今回が初めてという方も、大歓迎です。

さしあたり桜澤誠『沖縄観光産業の近現代史』（人文書院、2021 年）を輪読します。戦前における本土と沖縄の非対称性と観光、戦後の米軍統治下における軍事と観光、復帰後における沖縄の政治的な位置づけや文化の商品化の問題と観光、性と観光、といった論点が想起されます。企業や企業家の活動にも注目すべきでしょう。関心をもったテーマがあれば、各自でさらに追求してもよいと思います。2 冊目以降のテキストは受講生と話し合って決めます。

人間ゼミ

学術書から読み解く日本の教育問題

（山梨 あや）

人間が生まれてから亡くなるまで、学校教育を含めた教育は、人間の生の営みと密接に関わっています。それゆえに、教育問題は永遠に解決されることのない、それでいて常に取り組まざるを得ない性質を有しているといえるでしょう。

本ゼミでは、検討すべき「教育問題」を皆さんと相談しつつ決定し、教育問題を論じる上で重要な基礎文献をテキストとしながら、発表担当者による発表をもとにディスカッションを行います。検討候補となる教育問題は、義務制就学制度（学校に行くこと）／子ども／教員／学校行事／校則／ジェンダー／個性／教育における評価／能力、学力問題／学校教育と労働市場／家庭における教育／教育における平等　などです。

日常的な「体験」や「経験」として語られがちな「教育問題」について、学術書を読むことを通じて、より多角的に議論できるようになることが、本ゼミの目標です。

土曜講座の概要　土曜日

土曜講座

2時限　日本経済の課題と未来
（宮本 弘曉）

日本経済はいま、大きな転換点を迎えています。長く続いたデフレに苦しんできた日本ですが、2022年春以降、世界的なインフレの波を受けて物価が上昇し、さらに春闘では34年ぶりの高い賃上げが実現しました。株式市場でも日経平均株価が最高値を更新するなど、明るい兆しも見えています。しかし一方で、日本経済が抱える構造的な課題は依然として深刻です。少子高齢化の加速、膨張を続ける政府債務、そして待ったなしの気候変動対応。加えて、生成AIが雇用や働き方を大きく変えつつあり、社会のあり方そのものを揺るがしています。国際的には、トランプ政権の関税政策のように世界経済の不確実性を高める要因も増しています。こうした混迷の時代に、日本経済はどの方向に進むのか。本格的な再浮上は可能なのか。もし可能であるならば、私たちはどのような改革を進めていくべきなのか。本講座では、日本経済の現状と直面する課題を整理し、未来を切り開くための改革のシナリオを提示します。

4時限　国際政治は可能か
（遠藤 乾）

混沌とした時代にあって、国際政治は可能だろうか。国家と国家のあいだに社会／秩序は確立できるだろうか。それは何によって可能となるだろうか。それが可能だとして、何が逆に失われ、他の何と緊張関係に立つだろうか。この授業では、その点について考えてみたい。

周知のように、いまだ最強の米国が世界に関与する意思を減退させ、自国第一主義を先鋭化させるなか、中国は独裁を深めて大軍拡を続け、ロシアはウクライナを侵略している。いわゆるグローバル・サウスの国々は自らのことに忙しく、国家間の共存や協調はますます困難になっている。

そこで、ここでは原理的に国際政治を再考し、現実を見つめ直すきっかけをつかみたい。

第1回　国際政治とは何か
第2回　国際社会／秩序はどのように成立するのか
第3回　国際社会／秩序によって平和や正義は実現するのか
第4回　国際社会／秩序は「国際」的か
第5回　国際社会／秩序はいかにして失敗するのか
第6回　21世紀の国際社会／秩序

開講式・記念講演　※事前申込制

世田谷市民大学２０２６年度前期講座開講にあたり、開講式及び記念講演を行います。
参加を希望される方は、以下をご確認のうえ、講座の申込と併せてお申込みください。

1　日　　時　4月3日（金）10時00分～10時20分　開講式
10時30分～11時30分　記念講演

2　記念講演テーマ
せめぎ合う学校、家庭、地域 ―教育史の視点から考える―
講師：山梨 あや（慶應義塾大学教授）

3　会　　場　せたがや　がやがや館　4階多目的室

4　参加資格　世田谷市民大学2026年度前期講座の受講が決定された方。
※開講式、記念講演のみの参加はできません。

5　定　　員　80名　事前申込制
申込が多数の場合は、抽選により参加者を決定します。

6　参 加 費　開講式、記念講演の参加費は、無料です。

2026年度後期講座予告

後期（9 月～ 12 月）は以下の講座を開講予定です。
詳細は 7 月上旬に発行予定の『市民大学後期募集案内』をご覧ください。

※掲載をしている講師の肩書は2025年12月1日現在のものです。

曜日	時間割	講座タイトル	講　師
月曜日	政治1時限	国際政治と国際経済の関連を考える —国際政治の視点から	古城 佳子（東京大学名誉教授）
月曜日	政治2時限	スペイン・ポルトガルの政治 — 「特殊な国」の200年	武藤 祥（関西学院大学教授）
月曜日	社会3時限	大都市の移動と不平等を考える	山口 恵子（東京学芸大学教授）
月曜日	社会4時限	ローカル／コミュニティとメディアの文化論	浅岡 隆裕（立正大学教授）
金曜日	経済1時限	全体主義ツーリズムの時代 —NSレジームとKdF—	森 宜人（一橋大学教授）
金曜日	経済2時限	エネルギーから見る近現代日本の歴史 :石炭を中心に	島西 智輝（立教大学教授）
金曜日	人間3時限	戦後日本の文化運動と農村 :周縁からの思想史的考察	コマストリ キアラ（慶應義塾大学訪問研究員）
金曜日	人間4時限	ジェンダーと政治　戦後史から考える男と女	広岡 守穂（中央大学名誉教授）

曜日	時間割	講座タイトル	講　師
土曜日	土曜2時限	国道246号線スタディーズ ～ミリタリー･エリアから首都圏を考える	塚田 修一（相模女子大学准教授）
土曜日	土曜4時限	福祉と正義と経済学と	後藤 玲子（帝京大学教授）

今後の予定講座（2026 年度）

世田谷市民サマーフォーラム

顕在化する 21 世紀日本の課題

21 世紀に入って以降、わが国を取り巻く環境は著しく変化しています。なかでも、冷戦崩壊後、増大の一途を辿る地政学上のリスク、金融緩和政策に伴う赤字国債発行残高の増加、或いは食糧自給率の低下に起因する脆弱な食糧安全保障の問題などは、いずれも喫緊の課題です。そこで、今年度のサマーフォーラムにおいては、このような状況をどう考え、どのように対処していくべきか、みなさんと一緒に考えてみたいと思います
※短期集中講座で統一テーマのもと複数回行います。2026 年 7 月に実施予定です。

公 開 講 座

広く一般区民の方を対象として年２～３回行われる特別講座です。2027 年１月～２月にかけて実施予定です。日程、講師、講座名などの詳細は、「区のおしらせ　せたがや」や「世田谷区ホームページ」等でその都度お知らせします。（事前申込み制・無料）

受講生企画会議について

「土曜講座」の一部、「世田谷市民サマーフォーラム」、「公開講座」については、『受講生企画会議』において受講生が企画し、上記の市民大学運営委員会に提案を行っています。

『受講生企画会議』に参加ご希望の方、または詳細につきましては市民大学事務局受付にて配架中の「企画会議員の募集」ちらしをご覧ください。

世田谷市民大学運営委員会／評議会

2025年12月1日現在

学長 運営委員長	吉見 俊哉（國學院大學教授）

運営委員	浅子 和美（一橋大学名誉教授）	評議員	馬場 康雄（東京大学名誉教授）
	小川 有美（立教大学教授）		間宮 陽介（京都大学名誉教授）
	苅部　直（東京大学教授）		米山 光儀（慶應義塾大学名誉教授）
	髙嶋 修一（青山学院大学教授）		和田 あき子（ロシア文学研究者）
	高原 明生（東京女子大学特別客員教授）		
	滝澤 美帆（学習院大学教授）		
	玉野 和志（放送大学教授）		
	辻　泉（中央大学教授）		
	広岡 守穂（中央大学名誉教授）		
	山梨 あや（慶應義塾大学教授）		

申込みのご案内

募集対象

18 歳以上の区内在住・在勤・在学の方

※在勤・在学の証明書をご提示いただく場合がございます。
在学者とは世田谷区内の学校教育法第 1 条に規定される学校に在籍している方を対象とし、大学の聴講生や各種社会人講座を含むカルチャーセンター等の受講生は対象となりません。

申込み方法

(1)裏表紙の申込書利用の場合

必要事項を記入の上、世田谷市民大学あてに郵送してください。

※必ず 85 円切手を貼ってお出しください。

(2)郵便はがきまたはFAX利用の場合

裏表紙の申込書と同様の内容を記入の上、世田谷市民大学あてに郵送またはFAXでお申込みください。

(3)オンライン手続き利用の場合

「東京共同電子申請・届出サービス」より、お申込みください。

二次元コード→
(募集期間外は表示されません)

※同一端末（PC、スマートフォン等）で複数アカウント（複数人）の申込はできません。
お手数ですが、個々の端末での申込をお願いします。

※オンライン手続きで入力いただいたメールアドレスへ、突発的な休講等の連絡をする場合があります。
予めご了承ください。

前期募集期間

ゼミ（通年） 昼間講座 土曜講座 開講式･記念講演	2月2日（月）～16日（月） ※必着

募集定員

ゼミ（通年）	1ゼミにつき20名
昼間講座	1講座につき80名
土曜講座	1講座につき80名
開講式･記念講演	80名

※定員を大幅に下回るときは中止になる場合があります。
申込多数の場合は、抽選により受講者を決定します。
抽選の場合、初めて市民大学に申込まれる方を優先します。

※開講式・記念講演については、前期講座の受講が決定された方の参加となります。開講式・記念講演のみの参加はできません。

受講料

ゼ　ミ	前期・後期各 **17,000円** 昼間講座との割引制度があります。 詳細は下記をご覧ください。
昼間講座	1講座につき **7,000円** ゼミとの割引制度があります。 詳細は下記をご覧ください。
土曜講座	1講座につき **5,000円**
開講式･記念講演	**参加費無料**

※ゼミ受講中の方の割引制度について

・ゼミと昼間講座を併せて受講決定されると、昼間講座の受講料が割引になります。

・昼間講座 1 講座につき 3,500 円（2 講座まで）2 講座を超える場合は 3 講座目から、1 講座につき 6,000 円になります。

●ゼミでは、学習用教材を購入していただく場合があります。

●ゼミ後期分受講料の納入については、6 月頃に改めてお知らせいたします。

受講者の決定・受講料の支払い

◎3月上旬に、申込者全員に受講可否の通知を郵送します。受講可否についての問合せはご遠慮ください。また、受講が決定した方には別途、納付書を郵送します。(4月上旬)

◎納付された受講料は、原則としてお返しできません。

《前期講座の追加募集について》

申込締切日以降、定員に満たない講座については、3月13日（金）まで先着順で追加募集をします。

下記番号にお問い合わせください。

※各講座先着順で、定員に達し次第締切ります。

TEL 03−3412−3071

受付時間　8：30～17：00
土・日曜日・祝日はお休みです。

《 2026 年度前期講座の申込控えとしてお使いください 》

【ゼミ】

◯印		時限	講座名	講師
社会		(月)午前	男性学を読む･考える	辻　泉（中央大学教授）
政治		(月)午後	日本の近代をふりかえる	苅部 直（東京大学教授）
人間		(金)午前	学術書から読み解く日本の教育問題	山梨 あや（慶應義塾大学教授）
経済		(金)午後	観光の社会経済史	髙嶋 修一（青山学院大学教授）

【昼間講座】

◯印		時限	講座名	講師
政治		(月)1時限	日本思想史と仏教	島田 英明（東京都立大学教授）
		(月)2時限	民主体制と民主政治を考える	空井 護（成蹊大学教授）
社会		(月)3時限	メディア・コミュニケーションと対話 ～分断の時代に抗うためには?	田中 瑛（実践女子大学専任講師）
		(月)4時限	国際的な人の移動とエスニック社会の変化	水上 徹男（立教大学特別専任教授）
経済		(金)1時限	人類は貨幣をどう用いてきたのか ～貨幣再考	林 康史（立正大学教授）
		(金)2時限	日本経済の景気変動と長期停滞	脇田 成（東京都立大学教授） 前田 裕之（学習院大学客員研究員）
人間		(金)3時限	大学・高等教育論	原 圭寛（昭和音楽大学専任講師）
		(金)4時限	制作者のまなざしで読み解く映画	大木 一史　（映画監督）

【土曜講座】

◯印	時限	講座名	講師
	2 時限	日本経済の課題と未来	宮本 弘曉　（一橋大学教授）
	※今回「3時限の講座」は、ありません。		
	4 時限	国際政治は可能か	遠藤 乾（東京大学教授）

【開講式・記念講演】

	開講式・記念講演 4 月 3 日（金）10 時～	記念講演テーマ せめぎ合う学校、家庭、地域 ―教育史の視点から考える― 講師：山梨 あや（慶應義塾大学教授）

注意事項

- 講義の録音・撮影、資料の複製は禁止です。
- 授業の妨害行為（録音・撮影含む）が行われていると市民大学が判断した場合は、その場で教室から退室いただきます。原則としてその後の講義も受講いただけません。
- 諸般の事情により、講義内容、回数、日程等に変更が生じる場合があります。

2026年度 前期申込書

【ゼミ】 希望のゼミに○印をつけてください。

○印		時限	講座名
社会		（月）午前	男性学を読む・考える
政治		（月）午後	日本の近代をふりかえる
人間		（金）午前	学術書から読み解く日本の教育問題
経済		（金）午後	観光の社会経済史

【昼間講座】 希望の講座に○印をつけてください。

○印		時限	講座名
政		（月）1時限	日本思想史と仏教
治		（月）2時限	民主体制と民主政治を考える
社		（月）3時限	メディア・コミュニケーションと対話 〜分断の時代に抗うためには?
会		（月）4時限	国際的な人の移動とエスニック社会の変化
経		（金）1時限	人類は貨幣をどう用いてきたのか〜貨幣再考
済		（金）2時限	日本経済の景気変動と長期停滞
人		（金）3時限	大学・高等教育論
間		（金）4時限	制作者のまなざしで読み解く映画

【開講式・記念講演】 参加希望の方は○印をつけてください。

	開講式・記念講演	4月3日（金）10時〜

2026年度 前期申込書

【土曜講座】 希望の講座に○印をつけてください。

○印	日程	時限	講座名
	5/9・16・23・30 6/6・13 （土曜日・全6回）	2時限	日本経済の課題と未来
／	※今回「3時限の講座」は、ありません。		
	5/16・23・30 6/6・13・20 （土曜日・全6回）	4時限	国際政治は可能か

【開講式・記念講演】 参加希望の方は○印をつけてください。

	開講式・記念講演	4月3日（金）10時〜

郵 便 は が き

85円
※切手を貼ってください

154-0001

世田谷区池尻 2–3–11
せたがや　がやがや館 4 階
世田谷市民大学　行

【ゼミ・昼間講座・開講式記念講演用】

ふりがな		生　年　月
氏　名		大正　昭和　平成 年　月
住　所	〒	
電話番号		※日中に連絡のとれる電話番号をご記入ください（携帯電話も可）
区内在勤・在学の方 勤務先、学校名を記入してください。		
市民大学受講経験の有無 ㊒の方は受講者番号を記入してください （受講者番号が不明の場合、記入は不要です。）	**有　・　無** 受講者番号	

郵 便 は が き

85円
※切手を貼ってください

154-0001

世田谷区池尻 2–3–11
せたがや　がやがや館 4 階
世田谷市民大学　行

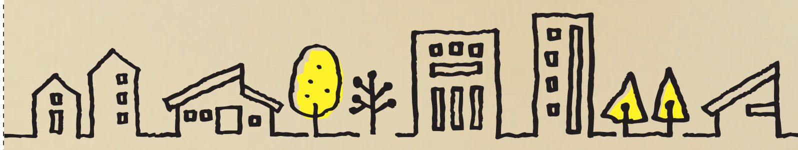
【土曜講座・開講式記念講演用】

ふりがな		生　年　月
氏　名		大正　昭和　平成 年　月
住　所	〒	
電話番号		※日中に連絡のとれる電話番号をご記入ください（携帯電話も可）
区内在勤・在学の方 勤務先、学校名を記入してください。		
市民大学受講経験の有無 ㊒の方は受講者番号を記入してください （受講者番号が不明の場合、記入は不要です。）	**有　・　無** 受講者番号	

- **必要事項を記入の上、ご郵送ください。**
  ※85円切手を必ず貼ってお出しください。
- **申込期間**
  2月2日（月）～2月16日（月）
  （2月16日必着）
- **提供された個人情報は、市民大学の運営にのみ利用します。**

問合せ先

世田谷市民大学事務局
TEL 03–3412–3071
※8:30～17:00（土・日曜日・祝日は休み）

お知らせ

後期（9～12月）に開講する講座は、
7月上旬から募集を行う予定です。